

## 史跡

## 団体OK

季節・分野	通年型	見学	雨天時OK
タイトル	奄美で暮らした日本画家、田中一村が最後に住んでいた家		
施設名	田中一村終焉の家（たなかいつそん・しゅうえんのいえ）		
住所	894-0062 鹿児島県 奄美市名瀬有屋町38-3 (あまみし・なぜありやちよう)		
電話	【奄美市役所】0997-52-1111		
担当者			
ホームページ	なし		
場所 駐車場	奄美空港から車で40分、奄美市役所前から車で10分 駐車場あり(5台程度) しまバスでは「有屋」下車、徒歩3分		
営業時間 定休日	特になし 特になし		
所要時間 料金	20分 見学無料		
受け入れ人数	制限なし トイレあり（車イス用なし）		
内容・特色	<p>▽日本画家、田中一村(1908～1977年)(明治41～昭和52年)。栃木県生まれ。東京美術学校(現・東京芸術大)日本画科に入学するが、中退。四国、九州、トカラ列島を旅し、1958年(昭和33年)、50歳の時、奄美に初来島。1962年(昭和37年)名瀬市(現・奄美市)に移住。大島紬の工場で働きながら、独自のタッチで奄美の動植物を描く。独り暮らしを続け、69歳で死去。死後、テレビ等で取り上げられ、その作品と孤高の生き方が注目された。</p> <p>▽田中一村が最晩年に住んでいた木造平屋の家を移築し、公園として整備したもの。内部は見られない。一村が使っていた道具なども、この家にはない。命日の9月11日には有志によって、この家の前で「一村忌」が行われている。</p> <p>▽田中一村の作品、ゆかりの品などは、奄美市笠利町の奄美パーク・田中一村記念美術館に展示されている。 (田中一村記念美術館については「B-5」を参照)</p>		



田中一村終焉の家  
(奄美市)